

第1問

問1 同然

問2 ①教育 ②読書指導

問3 意味【何の応援もないのに自分だけで熱心に指導している】

読み【こぐんふんとう】

問4 カギカッコは一般的に他の部分と区別するために用い、④において使われている精神向上が読書の本来の目的でないことを⑤にカギカッコをつけることで示唆している。

問5 読書指導の基本的な教育を受けていなくても、自分なりに『電車男』を読んで理解できるが、夏目漱石の『こころ』などを読んで味わうためにはとてつもなく苦勞するため、いつまで経っても真の読書の喜びは湧いてこない。

第2問

問1 梶井基次郎

問2 B 生 C 仏の教え

問3 終生桜を愛した西行は、満開の桜の花の中に生死が表裏一体であることを見ていたから。

問4 西行の歌には、死への思いだけでなく、自然の移り行きに等しい生命の蘇りへの期待もあつたのではないかと気づいたから。

問5 日本人は生死を自然と不可分なものとし、自然の中に生命の原理や源流を見ているから。

第3問

問1 (1) 【品詞】助動詞 【活用形】連体形 (2) 9

問2 (1) (孝行というものの) 仕方をさえ知りません

(2) ただその身はさも思はぬさまなり

(3) ただ新六自身はそんな風にも思はない様子です

問3 ①どんなことをやったのか

②報告申しあげるのでございます

③その様子は少しも言葉を飾るのではない

問4 取り立てて何を稀有な孝行だと言うことはできないが、貧農で暇のない身でありながら老親をこのように扱うことは並の者にはできないことだ。

問5 作者の家の使用人であった者が死んで数年経ってからも、兄の新六が弟の主人であった作者との昔の縁を忘れずに訪問し、今回孝子として領主から褒美を賜ったことも報告しに来たという経緯。

第4問

問1

| 問1   |      |      |       |
|------|------|------|-------|
| c 釈氏 | b 莊生 | a 聖人 |       |
| 釈迦   | 莊子   | 孔子   | 通用の名前 |
| 仏教   | 道教   | 儒教   | 説いた教え |

問2

①（書き下し文）「人として情無ければ、安くんぞ之を人と謂ふことを得んや。」と。

（口語訳）

「人でありながら感情を持たなければ、どうしてそれを人と言うことができるだろうか、できるはずがない。」と。

②（書き下し文）其の底裏も亦た自から人と異ならざらん。

（口語訳）

自然と莊生の本心もまた、一般の人と異なったりはしないのだろう。

問3

生死はひと続きのもので変わることがないが、本来これを語り尽くすのは難しいのである。

問4

少しでもこだわって考えるとすぐに障害だとした釈迦の言葉よりも優れている、生老病死など来る時にしか来ないし、なるようにしかならないという、孔子が達観して言った言葉。